

テーマ名：

演劇・映画探究（文芸学からのアプローチ）

担当者： 代表 機械システム系 住田光子

受入可能人数： 2人程度

実施予定場所： 演習室 または 図書館, 研究室

実施内容：

受講者が、演劇や映画をはじめとした芸術・文学のなかに、文化・社会・言語に関する諸問題を見つけ、ひとつのアプローチで問題を掘り下げることがを目的とする。テーマに関しては、受講者と相談し個別にテーマを決定する。

演習形式で、芸術作品は現代のどのような問題を網羅しているのか、学生の視点から調べた書籍やジャーナル、映像資料を発表してもらおう。また、ひとつの視点から作品を分析し、得られた発見を伝えるためのプレゼンテーションのスキル・アップをも目指す。足を使って、日本語・英語文献を探し、さまざまな映像に触れて、舞台芸術や映像作品を深く追究する覚悟のある学生向けの科目である。

なお、5年次卒業研究において、文芸学・演劇学・映画学などのアプローチで演劇・映画を研究しようとする学生は履修することがのぞましい。

演習計画：

(1) 学生がみずから、興味のある舞台芸術作品・映画を探し出す。

さらに、そうした作品を、どのような視点で分析してゆくのかを決める。

(2) 作品を分析するとともに、資料を収集する。また、付随する映像も鑑賞する。

(3) 読んだ本や観た映像を通して、得られた気づきを発表する。

(4) 舞台芸術作品・映画を分析するのにふさわしい主題をひとつに絞る。

(5) 学生は、個別指導を受けながら研究をすすめる。

(6) 研究と分析を通して、得られた成果を文字にする。

到達目標：

(1) 舞台芸術作品や映画を貫く主題や諸問題を見出すことができる。

(2) 上記(1)の諸問題を文献で調べた上で、ひとつの作品を批評することができる。

(3) 調べた結果を、論理的にまとめることができる。

授業内容：

学生と相談しながら、テーマを決めますが、より自由な発想でいきたいと思います。ひとつの作品をめぐる受容や背景を調べてゆくと、作品が同時代、さらには後の時代の人々や社会とつながっていることがみえてくるとと思います。舞台芸術作品や映画に対するひとつの意識を知るとは根気がいりますが、本科目では、学生がひとつのアプローチや見方を習得できるように配慮します。どのような手法で作品を解体したいのかをはっきりさせて臨むと、より有意義な時間になるとと思います。

テーマの例：

オール・メール・キャスティングによる演劇の意味

BBC のテレビ・ドラマ『SHERLOCK』における視聴者を取り込んだ物語制作
“
“ 思考回路を文字化した編集技術
high-functioning sociopath としてのシャーロック考

シナリオライターと監督の役割の違い

『ロミオとジュリエット』映画比較
(フランコ・ゼフィレリ、カルロ・カルレイ、ゲイリー・ウィニック監督の作品から)

ヨーロッパの廃墟と『ハムレット』上演

ト書きの研究

ロマンティック・コメディの系譜：リチャード・カーティス (*Notting Hill, About Time, Four Weddings and a Funeral, Love Actually*)

90年代初期の男性の視点からの映画製作：『テルマ&ルイズ』

パステーションをめぐって

戦後のフェスティバルの社会的意義

ドーバー海峡へ崖から落ちる演劇的場面：『リア王』

待つことの意味：演劇『ゴドーを待ちながら』

蜷川幸雄の舞台演出

パリの浮浪者とロンドンの浮浪者：ジョージ・オーウェルの作品から

ドキュメンタリーとしての映画再考

海外劇場比較

美術品とホロコースト、ひと：米英映画 *Woman in Gold* (2015)
(『黄金のアデーレ―名画の帰還』)